

「県内高校生のキャッシュレスに関する調査」「富大生のキャッシュレスに関する調査」結

果の速報

富山県内の5つの高校と富山大学経済学部学生の皆様を対象に、2024年の10月から11月にかけて紙媒体とオンラインでキャッシュレス決済に関するアンケート調査を実施しました。

キャッシュレスの推進は、消費者に利便性をもたらし、事業者の生産性向上にもつながります。その点から県内でも推進が望まれます。そこで、県内の若い世代におけるキャッシュレスの浸透度やキャッシュレス浸透の課題を明らかにするためにこのアンケートを実施しました。特に高校生でも利用できるキャッシュレス決済手段である「デビットカード」の利用に焦点をあてています。

アンケートの回答を高校生と大学生に分けてグラフ化したものが「「県内高校生のキャッシュレスに関する調査」および「富大生のキャッシュレスに関する調査」アンケート結果のグラフ」というファイルにまとめてあります。

調査対象となった県内の5つの高校については、県立高校が4校、私立高校が1校です。

- ・分析の結果

現在も分析を進めている最中ですが、現在までに明らかになった結果についてご紹介します。

<デビットカードの認知度や利用状況>

- ・デビットカードの認知度や利用状況については、大学生が高校生よりも進んでいることがわかりました。大学生は自分の銀行口座を持つ傾向にあり、またアルバイトもすることから、口座開設の際にデビットカード作成を勧誘されて作ることが多いようです。

- ・ただし、高校生でも高校によってデビットカード認知度や利用状況にかなり違いがあることがわかりました。学校ごとの金融教育、アルバイト可能かどうか、さらに海外留学制度の存在（海外留学のためにデビットカードを作る）も関わっているようです。

- ・また、大学生の方が高校生よりもデビットカードについての理解が深まっていることがわかりました。「デビットカードを利用しない理由」として、高校生の3割が「どういう場面で利用できるのか、よくわかっていないから」を選択した一方で、大学生ではこの項目を選択する人の割合は減り、1.4割となっています。

- ・ただし、「デビットカードを利用しない理由」として大学生も高校生も半数近くが「必要を感じないから」を選択しています。

- ・どのような場面でデビットカードが役立つのかを伝えていくことがデビットカードの普及に役立つと考えられます。

<その他のキャッシュレス決済の利用状況>

・高校生や大学生はキャッシュレス決済を使っていないわけではありません。場面に応じて様々なキャッシュレス決済を使っていました。

・たとえばコンビニでは、QRコード決済の利用が多く、高校生の3割以上、大学生の5割以上が利用していました。

・また、大学生・高校生ともにスーパーよりもコンビニでQRコード決済が利用されていました。コンビニのような比較的少額の決済が多い店舗タイプでは、QRコード決済が好まれることが分かります。

・ネットショッピングについては、大学生はクレジットカードやデビットカードを利用していました。一方で、高校生は「ネットショッピングで買い物をしない」と答えた人が多くなっていました。

<保護者とキャッシュレス>

・学生のデビットカード利用は保護者のキャッシュレス利用状況とも関わっていました。

保護者がクレジットカードやデビットカードを使っている場合に、学生がデビットカード利用する傾向にありました。

・保護者によるその他のキャッシュレス決済（電子マネー、QRコード決済、モバイルウェレット）の利用は、学生のデビットカード利用には影響していませんでした。

- ・また、「あなたがデビットカードを使い始める際、保護者の意見は影響しましたか？」と

いう質問については、大学生も高校生も4割以上が「非常に影響」または「やや影響」と答えていました。やはり保護者の意見は一定程度の影響を与えているようです。

- ・今後、県内で若者のデビットカードの普及を進めるには、高校での金融教育などによりど

のような場面で利用可能なのかなどを伝えていくことが役立つと考えられます。

- ・大変にお忙しい中、快くご協力くださった先生方、そして、学生の皆様、ご協力 誠にあ

りがとうございました。